

燃料油脂新聞

発行所
燃料油脂新聞社
 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町8-8
 電話 編集局東京03(6667)1031
 販売局東京03(6667)1042
 札幌・仙台・関東・信越・
 支局 東京・静岡・名古屋・大阪
 広島・四国・福岡
www.nenryo.co.jp
 ©燃料油脂新聞社2020

きょうの紙面

- 2 総合版
- 3 LPG版
- 4 週間マーケット情報版
- 5 九州・沖縄版
- 6 関東市況版

総合エネ調・基本
 政策分科会14日に
 資源エネルギー庁は
 14日、総合資源エネ
 ギー調査会基本政策分
 科会(分科会長・白石
 隆平本県立大学理事
 長)の第34回会を開
 く。2050年カーボ
 ンニュートラル実現や
 次期エネルギー基本計
 画の検討に向け業界団
 体をヒアリングする。

説 社会の新陳代
 社 謝を促すDX

クラター(カラクタ
 処分)コンサルタント
 やましたひでこさんが
 2009年に提唱した
 断捨離(たんしゃり)
 ブームが広がって
 いる。買ったけど使わ
 ずにタンスの肥やしに
 なっているモノを深く捨
 て、身の回りをすっきり
 させ、気持ちのS/S
 生活を取り戻ししましょ
 うーという生活提案が
 始まったが、最近
 は、DX(デジタルト
 ランスフォーメーショ
 ン)を迫られる企業や
 自治体においても断捨
 離は重要な行動指針に
 なっている。

エネ研寄稿 平井晴己氏、川上恭章氏、遠藤聖也氏 化石燃料使いながら脱炭素

【活躍の中心】
 アンモニアはあまり
 馴染みがないかもしれ
 ませんが、いろいろな
 ところで、私たちの生
 活を支えてくれていま
 す。20世紀初頭、ドイ
 ツでは、大気中から分
 離した窒素と水素を合
 成したアンモニアを製
 造する方法が工業的に
 確立しました。アンモ
 ニアを基礎として化学
 肥料が生産され、農業
 生産に必要な三大成分
 の一つ、窒素源の供給
 体制が確立しました。



遠藤聖也氏

【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

DXの取り組みで注
 目される日本電産の和
 田真治社長は、さまざま
 な機能を後から後から
 追加し、ツギハギだ
 らけになった旧来の基
 幹業務システムを「コ
 ミニ置数」になぞらえ
 た。機能不全に陥った
 仕組みを捨てずに残し
 ながらの廃物(フレイ
 ク)DXで「やっつけ
 感」を出すのでは後々
 困ったことになる。

【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

断捨離は、もともと
 はインドヨガの思想で
 断(余分なものを断断
 し取り込まない)捨
 (余分なものを捨て
 る)離(余分なものへ
 の執着から離れる)の
 三つをいう。健全な新
 陳代謝のために必要な
 考え方というのがポイ
 ントだ。政府は来年9
 月にデジタル庁を創設
 するが、いろいろなモノ
 や古い思考を捨てる
 ことが最初のハードル
 になりそうだ。DXが
 もたらす社会の新陳代
 謝が、シンプルな社会
 システムへの扉となる
 ことを期待したい。

【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

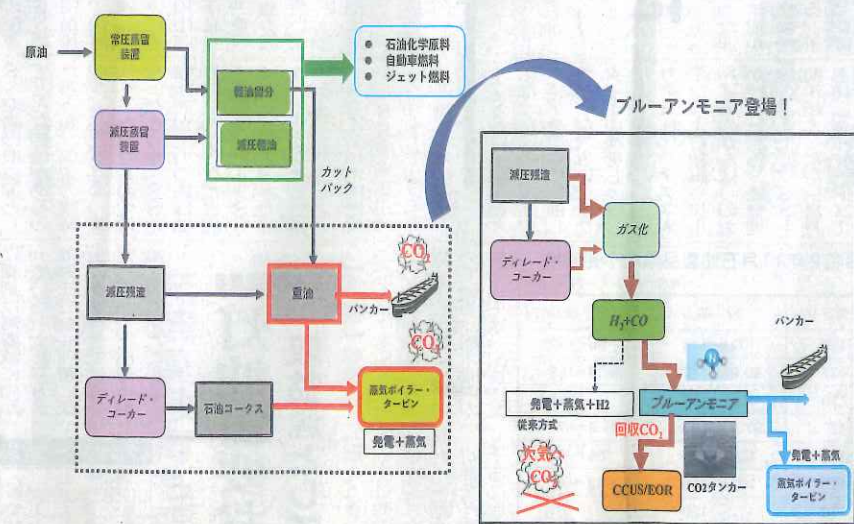
【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

アンモニアとプロパンの比較

	アンモニア(NH3)	プロパン(C3H8)
常温での外観	無色・刺激臭の気体	無色・無臭の気体
沸点	-33.4℃	-43.3℃
液密度[1,000kg/m ³]	0.674	0.507
蒸気圧[MPa](25℃)	1.01	1.37

2020年代半ば商業規模 石炭火力に混焼でCO₂削減 船舶燃料代替も

発電市場へ再登場 石油、アンモニアに変身



【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

【期待のエネルギー
 利用・火力発電所】
 昨今、CO₂(二酸
 化炭素)排出量が多い
 石炭火力に対する批判
 が一段と強くなってい
 ます。発電所の即時閉
 鎖は経済的損失も大き
 く、とくに開発途上国
 では受け入れ難い面も
 あります。

2020 年 12 月 14 日

担当者: 小松

灯油需給にダブつき 陸上市場 鈍いコスト反映

元売仕切りは全油種
以50銭上がったが、陸
上スポット価格へのコ
スト反映は鈍い。とり
わけ灯油は、一部に前
週を下回る安値もみら
れ、需給バランスの乱
れが懸念される。
仕切り改定発表後の
首都圏・製油所渡しの

灯油陸上スポット価格は、中心値こそ48円50銭〜49円50銭で、前週比20〜50銭上昇した。ただ二次基地で週前半にみられた46円台の安値に引きずられて、中心値を下回る47円台前半の安値が散見。価格提示の際に「ほかに安値があればそれに合わせる」と話す営業マンもいるといい、コスト転嫁は進んでいない。

元売再編後の首都圏陸上スポット市場は、多少価格が乱れる場面でも、元売仕切りを意識した値動きにとどまってきた。ここまで元売仕切りを無視して市場価格が動くのはまれで、市場関係者からは「元売玉ではムリ。首都圏にも輸入玉の影響がおよんでいる」との声があがっている。

シエツト燃料の需要不振を灯油販売で補える季節に入り、直近の石連週報（11月29日〜12月5日）によると国内製油所稼働率は75.2%と、10月中の60%台から回復してきた。ただ今シーズンの灯油需要は、10月下旬に早めの寒波が訪れたが11月は寒さが緩んで失速。12月も上旬時点で11月の不調を払拭できなかった。加えて商社などによる製品輸入は活発で、本格的な寒波が訪れるまでは、需給のアンバランスが続きそうだ。

北海ブレント 50ドル台

原油先物、9カ月ぶり回復

需要増期待

原油価格が一段と上昇し、約9カ月ぶりの高値を付けた。国際指標となる北海ブレント先物の10日終値は1バレルと

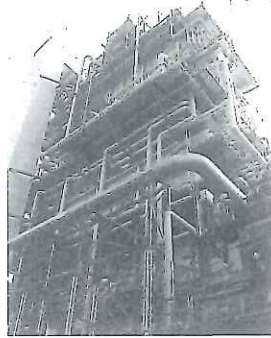
バイ原油のスポット価格も11日に50ドル近くまで上昇した。米国で新型コロナウイルスの緊急

使用許可が出る見通しとなり、接種の本格化に伴う経済の好転を期待した買いが強まった。ワクチンは英国やカナダでも承認されており、来年以降の石油需要の回復を織り込む流れが続いている。

2020 年 12 月 14 日

担当者: 小松

高効率ナフサ分解炉



炭素削減を
の二酸化
万6000
込め、年1
ネ効果を見
30%の省工
た。従来比

ナフサ分解炉が完成し
新設していた、高効率
所（山口県周南市）に
出光興産が徳山事業

高効率ナフサ分解炉完成 出光徳山、2月商業運転

実現する。試運転を経て2021年2月に商業運転に移行する。

新しい高効率分解炉

は、原料ナフサを短時間で熱分解してエチレン得率を高め、熱効率を向上する。新設には、経済産業省の「省エネルギー投資促進に向けた支援補助事業」を活用した。エチレン装置内の旧型ナフサ分解炉2基は停止する。

同事業所では年62万トのエチレンを生産し、周南コンビナートなどに供給している。出光は次世代エネルギーへの取り組みを進めるとともに、次代への橋渡しとして、今を支えるエネルギーの環境負荷低減にも積極的に取り組み、切れ目のない安定供給に貢献していく考え。

ウメト インフォメーション

2020年 12 月 14 日 担当 小松

▶大林組、トヨタ/遮音壁設置の効率化工法を開発/7倍の施工スピード実現 [2020年12月14日3面]



従来工法（左）と新工法の比較

大林組とトヨタ自動車未来創生センターは、高速道路の低層遮音壁を短時間で取り付け、車線規制期間を最小化できる「ハイウェイパネラック工法」を共同開発した。遮音壁の送り出しや取り付けなどを連続施工できる新装置をトラック車両に搭載。全作業工程を車両1台で行う。クレーンなど複数車両が必要な従来工法と比べ施工スピードを約7倍、車線規制期間も約半分にできる。首都高速道路遮音壁設置工事で有効性と実現性を確認した。

同工法では遮音壁の収納や搬送、送り出し、取り付けを車両の荷台上で完結。遮音壁やフェンスなどの付属物、仕上げ材を迅速に取り付けることができる。従来工事では1ユニット（パネル2枚）の取り付けに約30分必要だが、新工法では約4分半に短縮できる。

省人化にも大きく貢献する。クレーンで遮音壁をつり上げる従来工法では作業員6人が必要だが、新工法は水平移動させて取り付けするため3人で行える。荷物の移動をサポートするバランサーを二つ使って連携することで、遮音壁を水平に保ちながら軽い力で移動が可能。作業員の負担軽減にもつながる。

従来工法では遮音壁をトラックに積み込むフォークリフトや、搬送用のトラック、遮音壁をつり上げるクレーン、取り付け作業の高所作業車など各作業工程で複数の工事車両が必要。工事は夜間の時間帯や高速道路規制帯の限られたスペースの作業となり、施工時間の短縮や作業員の負担軽減などが大きな課題だった。

食用油、値上げ決着

10〜12月大口大豆・菜種が高騰

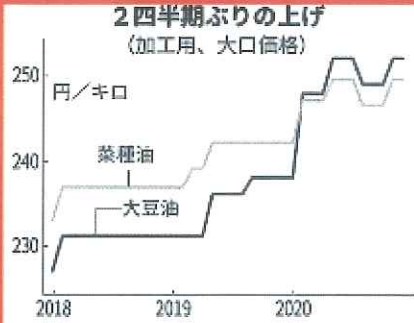
マーガリンやマヨネーズなどに使う加工用食用油の10〜12月期の大口取引価格交渉が値上げで決着した。大豆、菜種など原料相場が中国の輸入増や南米の天候不順で上昇したためだ。ただ新型コロナウイルス禍で外食や土産菓子の需要が減っており、上げ幅は圧縮された。加工食品メーカーの材料費負担は増す。

マーガリン向け加工用

新価格は大豆油が7〜9月期比3円(1.2%)高い1万2522円(中心値)、菜種油も3円(1.2%)高い1万2495円(同)。ともに2四半期ぶりの上昇だ。値上げの最大要因は原料価格の高騰だ。今回の価格交渉の参考となった

家庭用のマーガリンは堅調だが…(都内のスーパー)

7〜9月の国際相場は強い基調だった。シカゴ市場の大豆先物は12月8日台から10日台へと急上昇。米国産地での高温乾燥による減産懸念や中国による米国産大豆の購入増、南米産地の乾燥による作付け遅れなど相場の押し上げ材料が相次いだ。



菜種相場も欧州産の不作や大豆高騰にあわせて上がり、指標のウイニペグ先物(期近)は1万4500ポンド前後から5300ポンド前後まで上昇した。大豆、菜種ともに相場は4〜6月期より1割前後高い水準で、製油大手各社はマーガリンメーカーなどに5円程度の値上げを求めた。ただ内需の弱さから「満額回答とはならず、上げ幅は圧縮された(製油会社)」。緊急事態宣言が出された春の最悪期は脱しつつあるが、訪日外国人の大幅減で土産需要が減退したほか、住宅勤務の増加でコンビニエンスストア向けの菓子パン

や調理パンの販売も減っているという。マーガリンも単ごもり生活の影響で家庭用は前年比で伸びているが「家庭用よりも需要の多い業務用が振るわない」(加工食品メーカー)。日本一、G.O. To.キマーガリン工業会(東京)やケンペーンなどで入出が見られ始めたものの、コロナの感染が拡大している。需要の大幅改善は考えにくく、交渉は難航しそうだ。てんぷら店など外食店向けが主流の業務用油脂の卸値は、大豆油、菜種油ともに横ばいで推移している。問屋向けの卸価格は1缶(16.5kg)4100円前後。製油各社は年初に春からの値上げを打ち出していたが、外食の落ち込みを受け、交渉ができる状況にない(製油会社)という。